



園だより

文京区立第一幼稚園
令和6年度2月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

表現活動の中の学びとは

副園長 工藤 真規子

暖かな日が続いたかと思うと冷たい冬に戻るような「三寒四温」のこの季節、一步一步、春が近づいてきているのを感じます。

今月は今年度最後の大きな行事である「こども劇場」があります。「今日は〇時から劇（の練習）やるよ！見に来てね！」といろいろなクラスから声がかかり、子供たちが楽しんでいる姿を見ることが嬉しい毎日です。

幼稚園の生活では、お店やさんごっこ、動物ごっこなど、自分のなりたいものになって遊ぶことが日常的にあります。料理や買い物などのように身近な生活の再現もあれば、探検ごっこのように未知の世界にワクワクし、想像の世界を広げていくこともあります。その中で、友達と言葉をやりとりし、必要なものを作り、発想力や思考力、想像力が育まれていきます。そういった日常の遊びからワンステップ上がり、学級での劇や劇遊びでは、みんなとストーリーを共通にし、さまざまな役の登場人物になって物語を進めていくことを楽しむ活動です。

年少は、今日までのところは役を決めずにその時々になりたい動物になって遊んでいます。「演じる」というより、役になりきって動くことを楽しんでいきます。先生が汽車の運転手になって、汽車にいろいろな動物たちが次々に乗り込んで満員になります。友達と集うことや同じことをすることが楽しい、今の子供たちの楽しいことがそのまま劇遊びになっています。

年中は桃組も黄組も絵本を基に、子供たちがなりたい役（動物）やしたいことを出し合って取組を進めています。「ゾウは水を吹いてボール遊びしたい」「サルは高いところに登りたい」など、劇の展開の中に同じ役の仲間としたいことを取り入れ、演じることを楽しんでいきます。

年長では、絵本を題材にしながら、紫組も緑組もかなりオリジナリティのある劇になりました。みんなで動きながらセリフを考え合っていたときのことです。「次はこうなって、こうなるんだよね」と劇の流れは話せるのですが、役の動きが出てきません。先生が「閉じ込められているときって、どんな気持ち？」と返すと「早く出してよー！」「おうちに帰りたいよー！」と思わず心情の溢れる言葉や動きが出てきました。「知っていること」（ストーリー展開）を元に、「状況を理解し、役の心情を感じる、考えてみること」を通して、それぞれの場面の構成を考え合い、劇をつくってきました。ポイントとなることを先生が気付かせながら、学級のみならず、同じ役の友達数人のグループで動いたりして進めています。これは、小学校以降の学習の土台となる経験であると考えます。

決められたセリフや動きを覚える劇・劇遊びではなく、「自分たちのしたいこと」「一人一人の表現」をどの学年でも大事にしています。「こども劇場」の当日は、そういった過程を想像しながら楽しんでご覧ください。そして、子供たちの成長を感じていただけたらと思います。